

## 「私たちの生活を便利にする、IT先端技術を持つ企業に懸けよう！」

チーム ID : stockleague14

学校名・学年 : 東京大学 1年

担当教師 : 恒川恵一

チームリーダー : 松田亜希子

メンバー : 市川頼子、大串茜

大笹未賀、中村貴子

### <1> 自主テーマでの選定理由、それに至ったプロセス

まず 100 万円の株式投資をふまえ、500 万円のポートフォリオの説明をしたい。私たちは 100 万円の株式投資で、当時話題になっており今後伸びそうな分野の企業の株を買うことにした。企業の選択の基準は、経済の雑誌で騒がれている、新聞に新製品の広告を出している、インターネットを使って HP で新しいことをしている、などだった。私たちは試験期間と考え、またリスクの軽減になると思えるだけ多くの株を買った。

例えば家電の三洋電機は、電池事業において世界第一のシェアを誇る。フリースがブームになり、ユニクロが急成長したファーストリテイリング。光ファイバーで注目される三菱レイヨン、フジクラ。映像・音楽配信から金融まで、多分野を全て自前で制覇するソニー。アミューズメントで注目されるオリエンタルランド。不祥事を起こしたが期待されている雪印乳業、三菱自動車工業、ブリヂストン。音楽配信のエイベックス、ゲームのスクウェア等々である。選んだ企業のなかには、成熟しきった企業、新製品に振り回されて流行で割高な企業も含まれていた。また多種の株を少数株買ったので、当初考えていたほどのリターンはなく、むしろどんどん株価は下がっていった。

これまでの私たちの反省点は、多種の株を買いすぎたこと、重きをおくべき株を絞っていなかったこと、割高な株を買ってしまったこと、であった。それから、どんな企業であれ、これからは IT とは切り離せないことを学んだ。

100 万円の株式投資から学んだことを考慮して、私たちは次の 2 点を満たす企業を値上がり期待の企業として探し出した。

#### (1) IT 関連企業

IT 関連分野はここ数年で爆発的に成長していて、今後も成長し続ける事は疑いなく、将来性は抜群である。政府としても IT 強化政策を取り始めている。IT は、あらゆるビジネスの分野で不可欠の要素となっていくと考えられ、21 世紀は IT 技術をどの程度活かされるか、でビジネスの勝敗が決まる、といっても過言ではない。

## (2) 成長性と割安感のある企業

今現在の株価はそれほど良くもないが、企業内の技術・システム等に将来性を持っている企業のこと。現在すでに株価が上昇していると、これからの伸び率はあまりよくない可能性が高い。また、最近新製品が出た、などのニュース性のある企業は、本来の実力に比べて株価が割高になっているため、除いた。成熟し安定しきった大企業では、今後の大幅な株価上昇は見込めないのではないかと考え、割と小規模の企業を選んだ。

また、ポートフォリオを組む際に、次の2点を考慮した。

1. リスク軽減のため、上記の2点を満たす値上がり期待の企業と、安定性重視の企業を2:1位の割合で織り交ぜた。2:1にした理由は、3ヶ月という短期間のなかで大きな利益を得るには、安定性のある企業に重きをおいてはならないと考えたからである。
2. 本当に値上がりを期待できる企業、安定性を期待できる企業を少数に絞り込み、集中的に投資する。分散投資をしすぎると、得られる利益も小幅なものになってしまう。しかし、絞り込みすぎると反対にリスクが増大するので、10社くらいが適当と考えた。

これらの点を踏まえた上で、実際に企業を選定する段階に移行した。まず、ITに関連する分野で今後特に伸びそうなものには何があるか、列挙してみた。

「モバイル通信機器 (PDA、次世代携帯電話など)」「光ディスク」「ノートパソコン」「デジタル家電」「DVD」「CD-R」など。

しかし、企業を詳しく調べてゆくに連れ、このような一般の人向けの商品となる前の段階で使用する、基礎的なシステム・機器などが多数存在することに気付いた。

「半導体」「WDM (波長多重伝送)」「ブルートゥース」「電子計測器」「無線 LAN」「HUB」「ハンドラ」「システム LSI」「サーバ」など。

一般の人向けの商品をソフト、基礎的なシステムをハードと捉えると、売上に波のありそうなソフトを売る企業より、これからの IT 革命を着実に支え、安定的に需要が拡大していきそうなハードを売る企業の方が、成長性があると判断し、私たちはこのハード重点企業を、主に値上がり期待企業とすることを決定した。

次に、このハード重点企業を多数列挙した。数が多いため詳しい名前は省略する。その企業一社一社について(2)を満たしているか調べ、下記全てを満たす企業のみを選び出した。

チャートから判断し、中・短期的に株価が割安になっている。

大企業・成熟しきった企業ではない。

投資指標で、PER が 30 倍以下、ROE が 7% 以上、PBR が 2 倍以上、のうちの少なくとも 2 つを満たしている。

ここで選出された企業をさらに HP 上にあったソフトを使用して検討し、成長性と割安感において傑出していると判断した企業が、次の 6 社である。

アドバンテスト 電子計測器、ATE など。半導体関連の最先端技術でよく知られる。  
純利益が過去最高となった。

太陽誘電 ワイヤレス通信モジュールであるブルートゥースは、今後の伸びが期待される。また、世界で初めて CD - R を開発した。

古河電気工業 光ファイバー網の整備を手がける。半導体、電力、WDM など。

メルコ HUB、プリントサーバ、ルータなど、ネットワーク製品に重点をおく。

横河電機 コンポーネント製品、プロセス分析計など。

テセック ハンドラ、テストなど。店頭銘柄で成長性が高い。東南アジア向け輸出も好調。

続いて、安定性のある企業の選出に移る。IT 関連の大企業ということで、ソニー、NEC、松下電器産業、東芝、富士通などを列挙してみた。そして、やはり割安感、投資指標などを考慮した結果、下記の 3 社を選び出した。

シャープ PDA、携帯電話、オーディオなど。液晶に強く、カラー反射型液晶では独占  
的。

パイオニア 携帯電話、DVD、オーディオなど。

京セラ 半導体、電子部品、通信機器など。連結純利益が過去最高となった。

ここまでで 9 社だが、あと 1 社はメイテックである。人材派遣の会社で、特に企業の技術開発をサポートする技術者派遣に強い。成長が期待される企業であり、今後技術者の需要が高まることを考慮に入れて、メイテックを加えることとした。

## <2> この体験学習を通して学んだこと

株式購入で最も難しいと思ったのは将来性のある企業を選ぶということだ。現在株価が高い、すなわち有力だ捉えられている企業ではなく、これから実績を積んでいくであろう企業を予想するのは簡単ではない。現在の社会状況や経済状況から、ある特定の産業の興隆を予想しても、それを担う企業の中からどの企業を選択するかも問題である。企業の資産や従業員の質、研究設備など、諸々の要素を検討しないといけない。また新製品情報が入っても、それが最終的に売れるのか、消費者に求められているのか、考える必要がある。

このように株式投資には様々な難しい要素が含まれるが、個人が株式投資を進めることには二つのメリットがある。社会的には、貯蓄金額が減って、間接金融から直接金融へ比重が移動することである。様々な企業の、事業をはじめめる機会、事業を拡大する機会が増える。それによって社会全体の経済活動が活発になる。一方で個人においては、最近の金融機関の非常に低い金利ではなく、活用によってはかなり高い利率を得ることができることである。堅実に資産を活用したい人は安定性のある企業に投資すればよく、さしあたり必要のない資金を大幅に増やしたいなら、ある程度リスクに投資することもできるのである。このように、個人の目的と資金によって投資の仕方を考えることができる等、資産の有効活用を促進することができる。

今後は、規制緩和によって経済活動がより自由化されると共に、401K プランなど、個人の責任における賢い資産運用が必要な時代にもなってきている。しかし残念ながら、学生の中には株式投資について詳しく理解している人はとても少ないように見受けられる。私たちは株式投資のリスクや困難を十分に理解した上で、更に勉強を重ねて株式投資と上手く付き合っただけでなく、必要があると感じた。私たちに、気付きのきっかけを与えてくれたストックリーグには、非常に感謝している。